

「復活したら食事を食べる。」 ルカ 24章 36～43節

先週、復活を信じることは常識的にはありえないので、信仰の段階としては高度のものであって、それを信じることを安易に要求してはならないことを語りました。

「イエスは苦しみを受けた後、数多くの確かな証拠をもって、ご自分が生きていることを使徒たちに示された。四十日にわたって彼らに現れ、神の国のことを語られた。」(使徒1:3)とあるように、イエス様は復活された後こそ、信仰の奥義を真に理解するべく、弟子たちに40日間も掛けて教えられたのです。

私は、牧師としての長い牧会歴の中で、「信じている。」という人が、その信仰を確認或いは検証していません。残念ながら口先だけで言っていることがあることに気が付いてきました。

「救いを信じている。」ならば、嘘や誤魔化しをしないものです。ところが、安易に嘘を言い、誤魔化しをするクリスチャンがいます。「金持ちになりたがる人たちは、誘惑と畏れと、また人を滅びと破滅に沈める、愚かでも有害な多くの欲望に陥ります。」(1テモテ6:9)。「教会の外の人々にも評判の良い人でなければなりません。嘲られて、悪魔の罠に陥らないようにするためです。同じように執事たちも、品位があり、二枚舌を使わず、大酒飲みでなく、不正な利を求めず、きよい良心をもって、信仰の奥義を保っている人でなければなりません。」(同3:2)。信仰者としてこのように生きることが大事で、世の中で評判を良くしようとしたら、金持ちになりたがる人は、「誘惑と畏れと、欲望に陥る」のです。その人生は、信仰と世の誘惑に揺れ動き、不安となり、平安に生きられないのです。

「復活を信じている。」ならば、病や死を恐れないものです。むしろ、癒しを求めます。「その町の病人を癒やし、彼らに『神の国があなたがたの近くに來ている』と言いなさい。」(ルカ10:9)。癒しは神の国の到來と永遠のいのちのしるしなのです。病や障害の中で、私たちの信仰の実態が現れます。それは本人にとって苦しいこと、むごいことですから、私たちは癒しや解決を祈ります。ただ、主の御手の中にあることであることを受け入れなければならぬのです。

「主イエスが共におられる」(インマヌエル)ことを信じているならば、恐れや怒りは起こらないものです。復活されたイエス様が共に歩い

ておられたのに、「二人の目はさえぎられていて、イエスであることが分からなかった。」(ルカ24:16)。彼らは、「話し合ったり論じ合ったりしていい」(同15)のです。指導者が主の靈に満たされていなかったら、会議や講演は暗いものになり、否定的なものになっていきます。話し合いで、建設的なものや創造的なものが生まれることはありません。物事は思い付きや思案によって成し遂げられるのではなく、希望に満ちたビジョンによって導かれるのです。だから指導者のために祈る必要があるのです。日本中が、非難や批判、分析や議論で満ちています。滅びていく傾向です。私は、批判的な人や議論好きな人とは話をしません。

イエス様は、「平安があなたがたにあるように」(8)と言われました。神の健在の中で、人は自らの罪を意識し、恐れます。イエス様は、「なぜ取り乱しているのですか。どうして心に疑いを抱くのですか。」(8)と語りかけます。

「彼らが喜びのあまりまだ信じられず、不思議がっていたので」(11)、食べ物求め、魚を一切れ「彼らの前で召し上がった。」(12)のです。ここでイエス様が強調されたのは、復活した身体は、私たちと同じ肉体を持ち、食されるといふことです。多くの人が、天国を信じていますが、それは靈的なものであって、肉体はありません。つまり、観念的なものと捉えているのです。死んだら、肉体は滅んで、靈魂だけが天国と考えるならば、それは観念的な安心を与えません。

現代は、そのような観念的な天国思想もなくなり、死んだら何もなくなると思える人も多くなっております。自然葬が流行ってきて、骨を灰にして海や木の根元に撒くようです。

「終わりのラツパとともに、たちまち、一瞬のうちに変えられます。ラツパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。この朽ちるべきものが、朽ちないものを必ず着ることになり、この死ぬべきものが、死なないものを必ず着ることになるからです。そして、この朽ちるべきものが朽ちないものを着て、この死ぬべきものが死なないものを着るとき、このように記されたみことばが実現します。『死は勝利にのみ込まれた。』(1コリント15:52-54)。このよみがえりとは、朽ちない身体によみがえるといふことで、「彼らはいのちの木の実を食べる特権が与えられ」(黙示録22:14)なのです。

1. 信仰に生きるキリストの弟子の養成

主の弟子は状況に左右されず聖霊に聞き従い、神を信じ人を信じて人々の救いと解放をもたらす。十字架に死んで神と共に生きるとは、自分と人々の罪からくる咎を覚悟し信仰と希望と愛とを持って福音の祝福の中に生きることである。キリストの弟子の養成こそ教会の使命である。

2. 真理と祈りと讚美に満ちた信仰生活の指導

聖書の教え、真理は人を自由にする。祈りは問題や悩みを解決し、神の御心を確認する。讚美は癒しと喜びと力を与える。教会はそれらを教え指導し、互いの交わりの中で模範を造り出していく。

3. キリストを頭として愛によって結び合わされた共同体の形成

教会には多種多様な人々が神によってこの世から召し出されてくる。この信者を整え、神への奉仕という使命を果たすように導くには、キリストの弟子として十字架を負い主に従う指導者層が確立されなければならない。整えられ愛し合い一致した教会こそ神の栄光が現され成長する。

4. 隣人に対する愛に基づいた執り成しと伝道の実践

神を愛する人は人をも愛し、行いを伴う信仰を持つ。真理を知らず罪と咎によって苦しんでいる人々を愛し、執り成し、福音を伝えることによってこそクリスチャンは成長し、祝福される。

5. 地域と社会に貢献する魅力的な教会員の歩みと家族形成

教会と教会員の活動・事業・啓発運動を展開し、社会に影響を与えながら、同時に愛し合う家族を形成し、接する人々に福音を現していくことが、日本のリバイバルに必要であると私たちは信じる。

今週の聖書

ルカ 24:36 これらのことを話していると、イエスご自身が彼らの真ん中に立ち、「平安があなたがたにあるように」と言われた。

24:37 彼らはおびえて震え上がり、幽霊を見ているのだと思った。

24:38 そこで、イエスは言われた。「なぜ取り乱しているのですか。どうして心に疑いを抱くのですか。」

24:39 わたしの手やわたしの足を見なさい。まさしくわたしです。わたしにさわって、よく見なさい。幽霊なら肉や骨はありません。見て分かるように、わたしにはありません。」

24:40 こう言って、イエスは彼らに手と足を見せられた。

24:41 彼らが喜びのあまりまだ信じられず、不思議がっていたので、イエスは、「ここに何か食べ物がありますか」と言われた。

24:42 そこで、焼いた魚を一切れ差し出すと、

24:43 イエスはそれを取って、彼らの前で召し上がった。

Luk24:36 Now as they said these things, Jesus Himself stood in the midst of them, and said to them, "Peace to you."

24:37 But they were terrified and frightened, and supposed they had seen a spirit.

24:38 And He said to them, "Why are you troubled? And why do doubts arise in your hearts?"

24:39 "Behold My hands and My feet, that it is I Myself. Handle Me and see, for a spirit does not have flesh and bones as you see I have."

24:40 When He had said this, He showed them His hands and His feet.

24:41 But while they still did not believe for joy, and marveled, He said to them, "Have you any food here?"

24:42 So they gave Him a piece of a broiled fish and some honeycomb.

24:43 And He took it and ate in their presence.